

第3・4学年国語科学習指導案

日 時 平成27年10月29日(木) 5校時

対 象 3年生 8名 (4年生 7名)

指導者 佐藤 宏往

- 1 単元名 はたらく犬について調べよう
- 2 教材名 「もうどう犬の訓練」 東京書籍3年下
- 3 単元について
 - (1) 児童について

観 点	実 態 等
学習活動の経緯	<ul style="list-style-type: none"> ・5月に「自然のかくし絵」で、段落ごとの内容をとらえながら読み取することを学習した。 ・9月の「ほけんだより」を読みくらべよう」では、二つの文章を読み比べ、事柄の取り上げ方や説明の仕方の違いをとらえることを学習してきた。
読み取りの状況	<ul style="list-style-type: none"> ・読み取りの学習に対し、意欲的に取り組もうとする児童が多い。 ・段落の意味を理解しながら、内容を読み取ったり進んで自分の考えや感想を述べたりすることができる。 ・段落ごとに書かれていることを読み取り、大事な言葉や文を見つけて短くまとめる力は十分とはいえず、文章全部を抜き書きしたり問いに対しての答えが不正確であったりする児童が見られる。さらに、指示語の内容を指摘するのも苦手である。(NRTの結果から) ・調べたいことについて、事典や図鑑を読んで内容を短くまとめる経験はあまりない。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・複式学習では、間接指導の際でも学習リーダーを中心に自分たちで学習が進められるようになってきた。

(2) 単元で身につけたい力

学習指導要領との関連	<p>C読む</p> <p>(1) エ 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。</p> <p>イ 目的に応じて、中心となる語や文を捉えて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。</p>
本教材の特色と活用	<p>本教材は犬の特長と盲導犬の定義が述べられた後に、具体的な訓練の内容や心構えが訓練の段階の順番に説明されており、文章全体の構造が分かりやすくなっている。教科書の手引きでは、文章読解後、教材文を読んで興味をもったことを調べ、分かったことを書いてまとめる学習へとつながっていく。本教材では、段落ごとや文章全体の内容をとらえるだけでなく、知りたいことが書かれているところについて短くまとめる活動を取り上げている。</p>

以上のことを踏まえ、本単元でつけたい力を次のように考えた。

なお、本単元では、これらの力をつけるために、「はたらく犬Q&Aブック」を作り、身近な人に紹介する活動を設定した。

「はたらく犬Q&Aブック」の問題は、意味段落の小見出しをもとにする。また、答えは意味段落の要約文である。また、読む人に、分かりやすく簡単に、はたらく犬のことを知ってもらえるよう、

100字以内で要約させたい。また、はたらく犬についてさらに知りたいことを決め、調べたことを文章にまとめ紹介する。この活動で、紹介するために大事な言葉や文を見つけたり、言葉を補ったりしながら短くまとめる力が必要になる。

これらは指導事項エの「目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。」につながる。読み取ったことや調べたことを必要に応じて使いながら、文章を短くまとめたりすることが求められる。

「はたらく犬Q&Aブック」例

(3) 指導にあたって

- ① 【自分の考えをもたせる読解のための活動について】西中学校区視点1
 - ・学習の効率化を図るために、児童には学習シートを用意する。
 - ・意味段落の中にある、大事な言葉や文を見つけ、サイドラインを引かせる。
 - ・要約の仕方のモデルや手引きを示す。
 - ・進んで図鑑や事典から必要な情報を得られるようにするために、コーナーを設けておく。
- ② 【伝え合う活動について】西中学校区視点2
 - ・学習リーダーを中心に小グループでの学び合いの場面を設定する。
 - ・教えられていることが書かれているか、言葉を正しく付け加えたり補ったりして書いているか、話し合いの視点をもたせる。

4 単元指導計画

(1) 単元の目標と評価

単元の目標	・大事な言葉や文を見つけながら読み、書かれている内容を要約することができる。(エ) ・はたらく犬について関心を持ち、いろいろな資料を進んで読み、調べようとする。 ・文章を読み、指示語や接続語の役割を理解することができる。イ(ク)		
評価規準	国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解
	はたらく動物について関心を持ち、いろいろな資料を読んで調べようとしている。	大事な言葉や文を押さえ、書かれている内容を短くまとめながら読んでいる。(エ)	指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解している。 イ(ク)

(2) 学習計画 (全12時間)

	時	学習内容	読み取りのための活動	主な評価規準
つかむ	1	教材文を通読し感想を出し合い、教師作成のQ&Aブックを見せ、単元のゴールを確認する。	教師作成のQ&Aブックを提示し、関心をもたせる。並行読書について知る。	《評価規準》 【関】はたらく犬に関心を持ち、教材文の内容に興味を持って読もうとしている。
	2	Q&Aブック感想や考えたことを話し合い、学習計画を立てる。	感想を話し合い訓練の内容を要約する計画を立てる。	
わかる	3	書かれていることをたしかめ、小見出しを考える。	文章構成表と本文を比べながら、書かれている内容を確認する。	【読】順序や期間を表す言葉や文を手がかりに、文章の組み立てを捉えている。 【読】大事な言葉や文を手がかりに盲導犬の定義を要約している。 【読】大事な言葉や文を手がかりに盲動犬の訓練を要約している。 【言】教材文を読んで、指示語や接続語の役割を理解している。
	4	「Q&Aブック」のモデル例と①～③段落とを読み比べ、もうどう犬の定義について要約する。	もうどう犬の仕事、定義について書かれているところを見つけ短くまとめる。	
	5	「Q&Aブック」例と④～⑧段落とを読み比べ、初めの訓練について要約する。	「なか」の部分から初めの訓練について短くまとめる。	
	6 本時	⑨～⑫段落を読み、次の訓練について要約する。	「なか」の部分から次の訓練について短くまとめる。	
	7	⑬～⑯段落を読み、選択した内容を要約する。(もうどう犬の心得・しあげの訓練・もうどう犬のまとめ)	「なか」「おわり」から要約する箇所を選択し、訓練について短くまとめる。	
ふかめる	8	調べたい「はたらく犬」を決め、どのことについて知らせたいのかを考える。	「はたらく犬」について、知りたいことをメモに書きこむ。	【関】はたらく犬について関心を持ち、進んで調べようとしている。 【読】調べて分かったことを整理して、紹介するために大事な言葉や文を落とさないように要約している。 【読】「Q&Aブック」を読み合い分かりやすく要約できたか確かめ合っている。
	9 10	調べたい「はたらく犬」に関連する本や資料を読み、紹介するために必要な言葉や文を書き抜く。	調べたことをもとに「はたらく犬Q&Aブック」を書く。	
	11	調べて分かったことを「Q&Aブック」にまとめる。		
	12	「Q&Aブック」を互いに読み合い、学習を振り返る。		

5 本時の指導

- (1) 目標 訓練の内容を分かりやすく要約して、「Q&Aブック」にまとめることができる。
- (2) 評価規準と具体的評価規準

評価規準	評価方法	具体的評価規準	努力を要する児童への具体的な支援

大事な言葉や文を手がかりに盲動犬の訓練を要約している。	学習シート 発言	次の訓練で教えられることを入れながら、言葉を付け加えたり補ったりして要約している。	・要約文のモデルや書き出しを提示する。 ・「教えられる」ことに気を付けて大事な文を見つけさせる。
-----------------------------	-------------	---	---

(3) 展開

段階	学 習 内 容	◇読み取りのための活動 ・期待される児童の反応	・指導上の留意点 《評価》	形態
導入 8分	1 本時の学習課題を確認する。 次の訓練の様子を「Q&Aブック」にまとめよう。		・学習計画における本時の場面を確認する。	共通指導 8分
	2 学習の見通しを立てる。	◇Q&Aブックにまとめることを確認する。 ◇要約の仕方を確認する。		
展 開 31分	3 段落を確かめ、次の訓練で「どういうことを教えられるか」が書かれている文や言葉をさがす。	◇本文にサイドラインを引く。 ◇国語リーダーが中心となる。 ・必要な言葉は「人を安全にみちびく訓練」「あぶないものの前でとまる」「よけて進む」「きけんな命令にはしたがわない」	《評価》 次の訓練で教えられることを入れて、言葉を付け加えたり補ったりしながら要約しているか。 (学習シート)	間 接 指 導 13分
	4 次の訓練の内容を短くまとめるうえで、必要な言葉や文を話し合い、「人を安全にみちびく訓練」の内容を簡潔に要約する。	・「～ことも教えられます。」という文は必要。 ◇モデルをもとに要約する。		
	5 Qに対する答えをグループごとに伝え合う。	◇要約文を比べ、次の訓練で教えられることが書かれているか検討する。		
	6 本時の課題についてまとめる。	◇伝え合いをふまえ、自分なりに要約文をシートに書き込む。	《評価》 次の訓練で教えられることを入れて、言葉を付け加えたり補ったりしながら要約しているか。 (学習シート)	直 接 指 導 13分
	7 はたらく犬について自分が知りたいことを調べる。	◇知りたいことを調べるために並行読書をする。		間 接 指 導 5分

終 末 6 分	<p>8 学習の振り返りをする。</p> <p>9 次時の学習内容を知る。</p>	<p>◇学習シートに振り返りを書き込む。</p>	<p>・次時は、各自要約する部分を選んで短くまとめる学習していくことを予告する。</p>	共 通 指 導 6 分
------------------	---	--------------------------	--	----------------------------

(4) 板書計画

もうどう犬の訓練
かだい

次の訓練の様子を「Q & Aブック」に
まとめよう。

人を安全にみちびく訓練

教えられること

- ・あぶないものの前でとまる
- ・それをよけたりする
- ・使っている人にとって
きけんな命令にはしたがわかない

要約（モデル）

人を安全にみちびく訓練では、

まとめ

人を安全にみちびく訓練では、あぶないもの前で止まったり、それをよけて進んだりすることや使っている人にとってきけんな命令にはしたがわかないことも教えられる。

第3・4学年国語科学習指導案

日時 平成27年10月29日(木) 5校時

対象 (3年生 8名) 4年生 7名

指導者 佐藤 宏往

- 1 単元名 暮らしの中にある「和」と「洋」を調べよう
- 2 教材名 「暮らしの中の和と洋」 東京書籍4年下
- 3 単元について

(1) 児童について

観 点	実 態 等
学習活動の経緯	<ul style="list-style-type: none"> ・説明文については、5月に「ヤドカリとイソギンチャク」の学習を行い、要点をまとめたり、段落と段落の関係を捉えたりする学習を行った。 ・9月には「広告と説明書を読み比べよう」を学習し、目的による表し方の違いや述べ方の工夫をとらえることを学習してきた。
読み取りの状況	<ul style="list-style-type: none"> ・物語や説明的な文章を読み取ることに意欲的である。 ・主語や述語、修飾語を見つけたり、文脈から適切な接続語を指摘したりすることができる。 ・例という概念が理解できていなかったり、文章の構成を正しくとらえられていなかったりした児童もいる。また、条件に即し文章を要約する問題に対して、文をまとめられなかったり主述の関係を正しくとらえられなかったりした児童が見られた。(NRTの結果より) ・必要な情報を読み取り、要約したり必要に応じて引用したりする経験は少ない。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・複式学習では、間接指導の際でも学習リーダーを中心に自分たちで学習が進められるようになってきた。 ・自分の考えに固執し、考え方の視点を切り替えたり、気持ちを切り替えたりするまでに時間を要する児童もいる。

(2) 単元で身につけたい力

学習指導要領との関連	<p>C読む</p> <p>(1) エ 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。</p> <p>イ 目的に応じて、中心となる語や文を捉えて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。</p>
本教材の特色と活用	<p>本教材は、序論(はじめ)・本論(中)・結論(おわり)という典型的な形態をとっているため、児童にとっても文章構成がとらえられやすいと考えられる。本論部分はさらに3つに分けられ、大きな違いについて述べた後に、違いとそれによる良さの具体例が並列で書かれている。和と洋を対比して述べている点に文章の特徴がある。文章読解後、暮らしの中の日本の文化と外国の文化について調べ、分かったことを、引用の仕方などに気をつけて文章化していく活動を取り上げている。よって、必要な情報を読み取り、要約したり引用したりする経験を補える教材と考えられる。</p>

以上のことを踏まえ、本単元でつけたい力を次のように考えた。

○ 目的や必要に応じて文章から情報を読み取り、引用したり自分の言葉で要約したりする力

なお、本単元では、これらの力をつけるために「暮らしの中の和と洋ブック」を作り、先生や家族などの身近な大人に紹介したり、友達と交流したりする活動を設定した。

「暮らしの中の和と洋ブック」では、和室と洋室の良さを紹介するために、それぞれの良さを述べた

(2) 学習計画 (全12時間)

	時	学習内容	読み取りのための活動	主な評価規準
つかむ	1	身近な「和」と「洋」について発表し合い、「くらしの中の和と洋ブック」を提示し、単元のゴールを確認する。	教師作成の和と洋ブックを提示し、身近な「和」と「洋」への関心をもたせる。並行読書について知る。	【関】生活の中の「和」と「洋」に関心を持ち、意欲的に学習活動に取り組もうとしている。
	2	教材文を読み、感想を話し合い、学習の計画を立てる。	形式段落をおさえる。	
わかる	3	文章構成を話し合い、問いと答え、中が3つに分けられることを確認する。	始め・中・終わりに分ける。小見出しを考えてシートに書き込む。	【読】教材文を読んで構成をとらえ、どのような点から和室と洋室の良さを比べているかを読み取っている。 【読】教材文から読み取ったことと自分の考えを、教材文を引用したり要約したりしながらまとめている。 【言】指示語や接続語の役割を理解し、自分で文章を書く際に用いている。
	4	和室の過ごし方の良さについて、引用したり要約したりしてまとめる。	モデル文を参考に和室の部屋での過ごし方の良さを短い文章でまとめる。	
	5	洋室の過ごし方の良さについて引用したり要約したりしてまとめる。	モデル文を参考に洋室の部屋での過ごし方の良さを短い文章でまとめる。	
	6 本時	洋室の使い方の良さについて引用したり要約したりしてまとめる。	モデル文を参考に小グループで洋室の使い方の良さを短い文章でまとめる。	
	7	和室の使い方の良さについて引用したり要約したりしてまとめる。	モデル文を参考に和室の良さを各自文章でまとめる。	
ふかめる	8	暮らしの中にどのような「和」と「洋」があるかを考えて、調べることを決める。	調べたい「くらしの中の和と洋」を選び、必要な事柄をメモに書きこむ。	【関】和と洋について調べることに関心を持ち、知りたいことを進んで調べようとしている。 【読】調べて分かったことを整理して、紹介するために大事な言葉や文を落とさないように要約している。
	9	調べたいことを選び、必要な情報を集める。		
	10 11	教材文の構成を手がかりに「くらしの中の和と洋ブック」にまとめる。	調べたことをもとに「くらしの中の和と洋ブック」を書く。	
	12	調べたことを交流し合う。		

5 本時の指導

- (1) 目標 洋室の良さについて、文章を引用したり要約したりしてまとめることができる。
 (2) 評価規準と具体的評価規準

評価規準	評価方法	具体的評価規準	努力を要する児童への具体的な支援
教材文から読み取ったことと自分の考えを、教材文を引用したり要約したりしながらまとめている。	学習シート 発言	洋室の使い方の良さについて、文章を引用したり要約したり、自分の考えを加えたりしてまとめることができる。	・良さに線を引かせ、その後には気をつけて読ませる。 ・まとめ方のモデルを提示する。

(3) 展開

形態	学 習 内 容	◇読み取りのための活動 ・期待される児童の反応	・指導上の留意点《評価》	段階
共通指導 8分	1 本時の学習課題を確認する。		・学習計画における本時の場面を確認する。	導入
	洋室の使い方の良さを「くらしの中の和と洋ブック」にまとめよう。			
共通指導 8分	2 学習の見通しを立てる。	◇和と洋ブックにまとめることと、読み取るための方法を確認する。		8分
	3 洋室の使い方の良さをまとめる。 ・⑪～⑫段落を微音読し、使い方の良さが書かれている文はどこか考える。 ・見つけた良さ（引用文）をそれぞれカードに書き込む。 ・洋室の使い方の良さを要約する。	◇小グループごとに使い方の良さを読み取り、洋室の使い方の良さ（引用文）を赤いカードに書き込む。 ◇要約した文を青いカードに書き込む。	・家庭学習で良さを見つけ、サイドラインを引いてくる。 ・それぞれの良さに着目しながら微音読させる。	展 開
4 自分の経験をもとにした洋室の使い方の良さについて考える。	◇「どの部屋が」「どんな目的で」「どんな作りになっているか」「どんな良さがあるか」経験をもとに考えをもつ。			
間接指導 13分	5 自分の経験をもとにした洋室の使い方の良さについて考えを交流しあう。	◇国語リーダーを中心に行う。 ◇洋室の使い方の良さに沿った内容か検討する。	《評価》 洋室の使い方の良さについて、文章を引用したり要約したり、自分の考えを加えたりしてまとめているか。 (学習シート)	31分
6 交流をふまえ、洋室の「使い方の良さについて文章にまとめる。	◇文型を例示し、短くまとめさせる。			
直接指導 5分	7 本時の課題についてまとめる。			
共通指導 6分	8 学習の振り返りをする。	◇学習シートに振り返りを書き込む。	・次時は、和室の使い方の良さを要約し、ブックにまとめていくことを予告する。	終末 6分
	9 次時の学習内容を知る。			

(4) 板書計画

<p>自分の考え</p> <p>食事をする時には、イスに座って楽な姿勢で食べられる洋室の方がいい。</p> <p>寝る時には、すぐに横になれるベッドが置かれている洋室の方がいい。</p> <p>と思いました。</p>	<p>要約文</p> <p>洋室は、部屋で何をするかがはっきりして、使いやすいという良さがある。</p> <p>洋室は、目的に合わせて使いやすつくつられているという良さがある。</p>	<p>使い方の良さ (引用するところ)</p> <p>「洋室は、部屋で何をするかがはっきりして、そのために使いやすつくつられている。」</p> <p>(○○ページ)と、説明されています。</p>	<p>①課</p> <p>くらしの中の和と洋</p> <p>洋室の使い方の良さを「くらしの中の和と洋ブック」にまとめよう。</p>
--	--	---	---